

## 日本の足跡、再発見の旅 両陛下ベトナム、タイご訪問

昨年8月の譲位のお気持ち表明後、初めてとなった天皇、皇后両陛下の海外ご訪問。多湿で35度を超える暑さの日もあり、両陛下の身体にはこたえたであろうが、先々で「予想以上」（宮内庁関係者）の歓待を受けられた。ベトナム・フエでは空港から約16キロの宿舎までの間、ほぼ途切れることなく沿道で地元住民が両陛下を出迎え、日本国内各地へのご訪問と遜色ない光景が見られた。

今回のご訪問は、先の大戦をめぐる慰霊を目的としたものではなかったが、友好親善を深めるとともに、日本と日本人の足跡を再発見する旅となった。

独立運動家、ファン・ボイ・チャウによる日本への留学を促進する「東遊（ドンズー）運動」は、日露戦争に勝利した日本への憧れが端緒となり、日本人医師の支援で日越交流の礎を築いた。フランスからの独立を目指した戦いで武器を取った残留元日本兵の存在は、後にベトナムが主戦場となる東西冷戦で歴史に埋もれた。

両陛下が関連施設を訪問したり、残留元日本兵家族と面会されたりしたことで、こうした秘められた日本の歴史が鮮やかに照らし出された。ベトナムからの留学生が平成28年までの5年で約10倍に増えるなど盛んになった日越交流の源流を、日本国民に再確認させたものともいえる。

「越日関係の節目」「歴史的契機」。地元紙は連日、写真付きで両陛下のご動静を報じた。それは両陛下が日本国内と同様、分け隔てなく人と触れあう「不偏」の姿勢を示されたからでもある。ハノイの文廟（ぶんびょう）での元留学生との懇談、残留元日本兵家族との面会は、予定時間を大幅にオーバーしたが「少しでも多くの人と長く話し、相手に寄り添いたいというお気持ち」（同行した宮内庁幹部）から、ほぼ全員と話された。両国の親善にどれだけ寄与したかは言うまでもない。

譲位をめぐる議論が本格化する中、両陛下の海外ご訪問は、これが最後となる可能性もある。国民のために祈るだけでなく、政治や経済を越えて人と触れ合い、心を寄せる「象徴」としての務めを、天皇陛下は見事に果たされた。（伊藤弘一郎）